

令和4年度

事業計画書

公益財団法人 馬事文化財団

目 次

I	根岸競馬記念公苑における事業	1
1	馬の博物館事業	1
(1)	馬に関する博物資料の展示	1
(2)	馬に関する博物資料の調査、研究	2
(3)	出版事業	2
(4)	馬に関する博物・図書資料の収集、保管	2
(5)	研究交流・外部協力及び研修等の実施	2
2	馬展示事業	2
(1)	馬の展示	2
(2)	馬事イベントの開催と外部協力	3
(3)	厩舎管理等	3
3	馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援	3
(1)	講座・講演・ワークショップの開催	3
(2)	団体誘致の推進	3
(3)	行政・学校教育機関や地域自治会等との連携	3
4	馬文化保存事業	4
5	公苑管理業務	4
II	J R A 競馬博物館における事業	4
1	J R A 競馬博物館事業	4
(1)	馬及び競馬に関する展示	4
(2)	馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開	5
(3)	競馬に関する博物資料の調査、研究	5
(4)	出版事業	5
(5)	競馬に関する博物資料の収集、保管	5
(6)	来館者への案内業務等	5
(7)	馬に関する普及活動及び学習支援	5
III	競馬振興会館 (Gate J.) における事業	6
1	競馬振興会館事業	6
(1)	馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信	6
(2)	イベントの実施	6
(3)	馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映	6
IV	広報活動	6
V	J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集	6

令和4年度 事業計画

令和4年度においては、当財団の定款第4条の目的を達成するため、根岸競馬記念公苑・馬の博物館をはじめとする財団各施設等において効果的な展示、イベント等を行うとともに、それらを広く周知し、学術及び文化の発展に寄与します。

但し、各施設の運営に際しては、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、必要な感染防止策を講じ、お客様やスタッフの安全確保を最優先として慎重に展示やイベントの実施に努めます。

I 根岸競馬記念公苑における事業

1 馬の博物館事業

(1) 馬に関する博物資料の展示

馬文化と競馬文化に関する知識の普及と強化を図るため、これまでに蓄積した馬に関する博物資料を、様々に工夫して展示し、鑑賞に供します。

令和4年度は、春秋に特別展を行うほか、年間を通じて多様な内容のテーマ展を実施し、併せて展示内容に即したイベント・講演会も企画します。

① 春季特別展「馬とメルヘン やなせたかしの世界」(仮称)

やなせたかし氏(1919-2013年)は、アニメや絵本で知られる「アンパンマン」を生み出した漫画家です。

本展では、軍隊で馬に乗っていたというやなせ氏の体験を取り上げるほか、やなせ氏の膨大な作品の中から馬を描いたものを中心に、「アンパンマン」シリーズの原画やタブローから、絵本『しろいうま』の原画、編集を手がけていた雑誌『詩とメルヘン』・『いちごえほん』の表紙原画、『やなせたかしの新アラビアンナイト』まで、多岐にわたる作品を展示します。

「やなせメルヘン」と自ら名付けた抒情、幻想にあふれた世界観を、貴重な原画を通してお楽しみいただける展示とします。

② 秋季特別展「狩野派の馬」(仮称)

狩野派は、室町時代後期に初代の狩野正信が室町幕府の御用絵師となって以来、幕末まで時の政権と結びついて、権力者の求めに応じ絵を描いてきました。室町後期から江戸時代の終焉まで400年にわたって血脈を保ち、権威を保持し続けてきた狩野派は、日本史上最大の画派といえます。馬は人々と密着な関係を持った動物であったために、狩野派の画にも様々な馬が描かれます。狩野派が描いた馬を一堂に会することで、狩野派の歴史と、狩野派が描いてきた馬の絵がどのようなものであったかを紹介します。また、描かれた馬の様々な姿を見ていただくことで、馬の絵を見る楽しさを伝える展示とします。

③ テーマ展

『馬のおはなし』『馬車づくし!』『ウマとクルマ』『坂本繁二郎と馬』『馬のお世話のいまむかし』『季語・馬 四季の風景』(展覧会名は仮称)

等、歴史、民俗、美術、文学といった分野のテーマを設けて展示を行います。

④ 常設展示

来館者の馬への理解が深まるように、収蔵品や体感機器・体験機を活用した効果的な展示を行います。

(2) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬の文化について、自然科学（進化・品種等）、人文・社会科学（歴史、考古、民俗、美術工芸、馬術・乗馬、競馬等）の各分野において、広く文献収集・聴取・実地調査を行うとともに、調査結果の分析・研究を行います。

(3) 出版事業

馬の文化についてより一層の理解醸成を図るため、印刷物を刊行し、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、J R A各施設及び競馬サークル各団体等に配布します。

① 特別展等については、来館者の多様な関心に応じて、展示内容の理解が深まるように展示内容の紹介を中心とした図録・チラシを作製します。

② 馬に関する博物資料の調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』第24号を刊行し発表します。

(4) 馬に関する博物・図書資料の収集、保管

馬に関する博物・図書資料を収集し、その保管、保持に努めます。また、収集した博物・図書資料については、「資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図るとともに、文化庁が開始した文化遺産オンラインデータベースを活用することで、所蔵品情報のオープン化に努めます。なお、博物資料の保管にあたっては、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来への継承に備えます。

(5) 研究交流・外部協力及び研修等の実施

① 調査研究活動の成果発表により、広く学術の発展に貢献するとともに、学会・研究プロジェクト等に参加し、研究交流を促進します。

② 全国の博物館・美術館における馬の文化にかかわる展示・出版・映像等の企画に協力し、内容の向上に寄与することを目指します。

③ J R Aや競馬サークル各団体のみならず、全国の博物館・美術館や公共機関等の要請に応じ、馬文化及び競馬の歴史等について展示解説・講義等を実施します。

④ 日本博物館協会、全国美術館会議、神奈川県博物館協会等の行う会議、研究会、専門部会に参加するとともに、各地の博物館、教育機関と資料の相互活用及び情報交換を行います。

⑤ 大学の学芸員課程の依頼に応じ、実習生を受け入れて指導を行うとともに、獣医・動物看護関連学校の研修、見学も積極的に受け入れます。

2 馬展示事業

(1) 馬の展示

身近に接する機会が少なくなっている馬について、博物館事業の一環として、ポニーセンターにて実馬を繋養展示します。展示用馬は、多品種の馬を繋養することとし、放牧や騎乗等の様子を紹介します。また、貴重な日本在

来馬種については、保存活動の一助となるような展示・活用に努めます。

(2) 馬事イベントの開催と外部協力

馬事普及活動の一環として、展示用馬を活用した馬事関連イベントを実施するとともに、広く外部団体等の活動やイベント等に展示用馬を使った協力を行います。

① 来苑者を対象とした体験乗馬及び馬車の試乗会等の他、にんじんを馬に与えるイベント（「にんじんタイム」）を行い、実馬にふれあえる機会を定期的に設けます。

また、馬事伝統芸能やアトラクションホースの演技等を中心とした春・秋特別イベントとして、「馬とあそぼうこどもの日」を5月5日（木・祝）に、さらに「馬とのつどい 2022」を11月上旬に開催し、より多くの来苑者に馬の魅力を伝え馬事普及に努めます。

なお、両イベントとも行政や他団体、地元マスコミとの十分な連携により周知等に努め、盛り上げを図ります。

この他、桜が見頃を迎える時期や夏休みの期間等に特別イベントを企画し、来苑者増を図ります。

② JRA及び競馬サークル各団体のほか、教育機関・公共機関が主催するイベント等において、展示用馬の出張等の協力を行い、馬の魅力を広めるとともに当財団・両博物館等の普及・展示内容やイベントの周知に努めます。

③ 展示用馬の管理や運動のほか、自発的な協力活動を行う根岸愛馬スポーツ少年団の要請に応じて、安全を確保した上で、適切な指導を行います。

(3) 厩舎管理等

展示用馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の衛生管理並びに来苑者への快適な展示環境の提供に努めます。

3 馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援

博物館機能と展示用馬を活用し、展示内容や体験乗馬等の充実を図り、馬と馬文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設けます。さらに、来苑・来館者がリピーター・サポーターとして継続的に生涯学習が行える拠点となるように努めます。

(1) 講座・講演・ワークショップの開催

展示に合わせた各分野の講座・講演会のほか、年間を通じて各種のワークショップを開催します。

(2) 団体誘致の推進

（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー（観光誘致担当）等と連携して団体旅行の誘致に努めます。

(3) 行政・学校教育機関や地域自治会等との連携

横浜市及び教育委員会、近隣の小・中学校や地元自治会・町内会等の協力を得て、遠足・社会見学・職場体験やレクリエーション等の機会を定期的に提供してまいります。小・中・高校生向けには、学校教育と合致した学習プログラムを用意し、体験学習・生活学習に供します。また、年間を通じて土曜日を無料入館日とし、児童・生徒・学生の来館を促進します。

4 馬文化保存事業

馬に因んだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興を図ります。また公益社団法人日本馬事協会と連携し、日本在来馬8和種の保存を図るための事業を実施します。さらに競馬場等で『在来馬とのふれあい&保護チャリティーイベント』を実施します。

5 公苑管理業務

来苑者の憩いの場として、また、近隣の児童・生徒等の教育や生涯学習の場として、広く利活用されるよう、年間を通じて計画的に種々の草花や樹木を整備し、自然環境の保持に努めるとともに、案内看板や遊具・備品等の適切な改善に努めます。

II JRA競馬博物館における事業

1 JRA競馬博物館事業

(1) 馬及び競馬に関する展示

令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館や競馬場の入場制限等がありましたが、改めて競馬を文化の面から紹介し、競馬に対する知識と理解を深める場を提供するため、各種展示やイベントを実施します。また、来館者に競馬の魅力を体感してもらえるよう、各種の映像放映や体験型機器の整備・運用を効果的に実施します。

更に、競馬専門の博物館として名馬たちの足跡や競馬の歴史等に関わる資料の収集・保管を継続します。

展示やイベント実施にあたっては、近年、次世代人材の育成が競馬サークル全体の大きな課題となっていることから、競馬サークルへの就業促進あるいは低年齢層へのPRも念頭において取組みます。将来の競馬サークルの担い手となる低年齢層を含んだファミリー層に対する働きかけを積極的に実施するとともに、各種PR活動により競馬博物館の認知度向上や新たな競馬ファン獲得を図ります。

① ギャラリー及び展示室3

- ・ 2月から4月には「2021年度JRA賞展」を開催します。
- ・ 4月から10月には企画展「オグリキャップー今甦る芦毛の怪物ー」(仮称)を開催します。
- ・ 4月から10月にはギャラリー及び馬の学び舎にて特別展「長瀬智之作品展」(仮称)を開催します。長瀬氏は馬をモチーフとした多くの作品を手掛けており、メモリアルホールでは、顕彰馬ロードカナロア号、キタサンブラック号の絵画を展示しています。
- ・ 10月から令和5年2月には特別展「尾形藤吉〜“大尾形”の系譜〜」(仮称)を開催します。

② エントランスホール等

下記の展示を実施します。

- ・ 「新人騎手(第38期生)紹介展」(3月〜5月)
- ・ 「第89回日本ダービー優勝馬展」(6月〜7月)

- ・「第42回ジャパンカップ優勝馬展」(12月～令和5年2月)
- ③ 競馬及び馬に関する常設展示
 - ・ 顕彰馬及び顕彰者、馬学や競馬のしくみ、日本と世界の競馬の歴史について資料やパネル説明等にて展示を行います。
 - ・ 「ライブシアター」、「東京競馬場歴史絵巻」等により競馬や府中の歴史文化に触れていただきます。
- ④ 移動展示及び他団体主催展示への協力
 - ・ JRA各施設及び競馬サークル各団体等の要請に応じて競馬に関する移動展示に協力します。
 - ・ 他の団体等が主催する馬及び馬の文化の普及に資する展示等について協力します。
- (2) 馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開
 - ・ 150インチ中型映像装置で年間を通じて“アニメ馬物語”、“Horse Dreamer”を、また状況に応じて競馬文化あるいは競馬に関わる職業等を紹介するビデオを放映します。
 - ・ 次世代の競馬サークルへの就業促進に資することを目的に、子供たちに馬にかかわる仕事をアピールするために「馬にかかわるいろいろなおしごと(3)～競走馬を支える職人」を展示します。
 - ・ 「GateJ. トークショー」や競馬と馬に関わる講義等を開催します。
- (3) 競馬に関する博物資料の調査、研究

展示に必要な文献収集・聴取・実地調査を行います。
- (4) 出版事業

馬及び競馬文化についてより一層の理解醸成を図るため、各種印刷物の刊行及び映像の制作を行い、広く配布・放映します。
- (5) 競馬に関する博物資料の収集、保管
 - ・ 競馬に関する国内外の博物資料を調査し、体系的に収集、保管に努めます。
 - ・ 収集した博物資料については、「資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図ります。
- (6) 来館者への案内業務等

来館者に競馬の魅力を体感していただくため、館内に展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、館内案内や体験機器の説明等を行います。なお、体験機器については安全かつ円滑な運用を図るため、適切な点検等を行います。
- (7) 馬に関する普及活動及び学習支援

競馬開催日及び平日に東京競馬場乗馬センターと連携し、学校教育・課外授業等のニーズに応え、馬及び馬事文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設け、来館を促進します。

Ⅲ 競馬振興会館（Gate J.）における事業

1 競馬振興会館事業

(1) 馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信

年間を通じて実施するテーマ展示及び常設展示等により、馬の文化と競馬に関する知識の普及を図ります。

令和3年秋にJRA新橋分館から西新橋のJRA新本部ビル地下1階へ移転したGateJ.（東京）については、一新された館内設備や展示を通じて新たな来館者層に訴求できるよう情報発信に努めます。

また、開業から10年以上経過したウインズ梅田内にあるGateJ. 大阪についても状況を再検証し、より多くの競馬利用者の目に触れるため、A館とB館に分断されている施設をB館に集約化する改修工事を行い、さらなる活性化を図ることとします。

(2) イベントの実施

G I レースを中心に、Gate J. 内セミナールームにおいてトークイベントやレース検討会等を開催し、レースに関する多種多様な情報提供のみならず歴史的な背景等についても紹介します。

また、Gate J. 出張イベントとして、馬の博物館やJRA競馬博物館等の施設にてトークイベントや展示等を実施します。

(3) 馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映

JRAや当財団でこれまでに制作した映像を最大限に活用し、それらをGate J. 大型モニターやグリーンチャンネル等で放映することにより、広報として活用する他、広く馬の文化に関する知識の普及と競馬の健全な発展に努めます。

Ⅳ 広報活動

馬の博物館とJRA競馬博物館及びGate J. の各種情報を告知するため、財団ホームページ、Facebook、twitter、JRAホームページ及び各種配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用するとともに、ターフビジョン・場内ITV、グリーンチャンネル等での告知を図ります。

また、行政や近隣の公共機関・交通機関及び他の観光団体や博物館・美術館と連携し、各種案内等の広報を行うとともに、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、各媒体に対する情報提供や取材協力を行います。

なお、昨年Gate J. サイトのリニューアルに続き、馬の博物館・ポニーセンター、JRA競馬博物館等に関する財団の各ホームページについても、順次リニューアルに取り組んでいきます。

Ⅴ JRA賞馬事文化賞候補作品の情報収集

JRAから業務委託を受け、海外情報も含めたJRA賞馬事文化賞にかかわる情報の収集等を行います。